
 参考文献

- 鈴木克明・美馬のゆり（編著）（2018）．『学習設計マニュアル』北大路書房
生徒（1年生）が手元に置き、GR等で活用している本です。学校図書館に50冊あります。
- 鈴木克明（監修）．市川 尚・根本淳子（2016）『インストラクショナルデザインの道具箱 101』北大路書房
平成28年度に校内で購入を呼び掛けた本です。ID辞典のような使い方ができます。IDのツールの説明とその活用事例で2ページ1セットで書かれているので、どこからでも好きなところから読めます。
- 鈴木克明（2002）．『教材設計マニュアル』北大路書房
- 稲垣忠・鈴木克明（編著）（2014）．『授業設計マニュアル ver.2』北大路書房
ぜひご参照ください。ID理解が深まります。
- L・B・ニルソン（著）．美馬のゆり・伊藤崇達（監訳）（2017）『学生を自己調整学習者に育てる アクティブラーニングのその先へ』（北大路書房）
自己調整学習者について、理解を深めることができます。
- スー・F・ヤング・ロバート・J・ウィルソン（2000）．土持ゲーリー法一（監訳）『主体的学びにつなげる評価と学習方法 カナダで実践されるICEモデル』東信堂
本校で取り入れ始めた際に、最初に校内で紹介した本です。
- 柘磨昭孝（2017）『ICEモデルで拓く主体的な学び 成長を促すフレームワークの実践』東信堂
H28年度本校職員研修での御講演以降、御助言をいただいている前広島県立祇園北高等学校長柘磨昭孝先生の著書です。
- R・リチャードら著 黒上晴夫ら訳（2015）『子どもの思考が見える21のルーチン：アクティブな学びをつくる』（北大路書房）
思考の可視化 (Making Thinking Visible) によって学習者の関与感を高め、理解を深め、自立を促す授業を構成することに関して深めることができます。
- 栗田佳代子（編著）（2017）．『インタラクティブティーチングーアクティブ・ラーニングを促す授業づくりー』河合出版
「グラフィックシラバス」などわかりやすく例が掲載されています。ムービー（東大FDで検索すると無料で視聴可）も公開されています。年度当初（職員研修シラバスに掲載する形で）お知らせしています。
- G・ウィギンズ、J・マクタイ著、西岡加奈恵（訳）（2014）．『理解をもたらすカリキュラム設計』日本標準
本質的な問い等、たくさんの事例に触れることができます。
- 井庭崇（編著）（2019）．『クリエイティブ・ラーニング 創造社会の学びと教育』慶応義塾大学出版会
クリエイティブ・ラーニングを支援するパターンランゲージについて知ることができます。